

---

# 現代日本の大衆芸能における新潮流をとらえる

## ——音楽・映像・演劇のクロスオーバーから 2.5 次元ミュージカルまで

増山賢治 愛知県立芸術大学音楽学部教授 (音楽学)

---

### はじめに

本稿は筆者が本学にて担当する隔年開講の講義「ポピュラー音楽概論」(平成 26 年度)の内容に加筆し再構成したものを基礎とし、それに昨年見聞した 2.5 次元ミュージカル関連のシンポジウムやそれに関する最新情報などを若干加味して書かれたものである。当該年度の講義はポピュラー音楽研究の視点にメディア論を応用する試みとして、現代日本の大衆芸能の報道におけるメディアの公正性を検証することを最終的な目標として見据え、主として J-POP や演劇の若手パフォーマーとその出演作品を近年注目される現象の事例として取り上げながら、それらから音楽、映像(映画・テレビ)、演劇の新しい潮流を受講生が感じ取ることを主眼に展開した。また、毎回のトピックに基づく事例の提示に加えて、筆者が講義期間中に注目した音楽ライブ・イベントや映画上映、テレビ放映、演劇公演等の情報を随時受講生に紹介、言及することで、彼らの大衆芸能の現状への眼差し、およびメディア報道を検証する姿勢を養うことも併せて目指した。講義は一応、全体のタイトルを「現代日本の大衆音楽・芸能におけるクロスオーバー現象をめぐる諸問題」として 2014 年 10 月の初めから 2015 年 1 月末まで行われた。対象事例として本稿で言及したものは基本的に講義中のものと同じであるが、一部省略したものもあり、逆に講義の際には時間その他の関係で取り上げなかったものが本稿で若干付加されている場合がある。以下、講義の概要と具体的内容を整理して記す。

### I 学習目標

ポピュラー音楽の定義はできるだけシンプルに示すという主旨の下、「コトバンク」による記述を示した<sup>1</sup>。次に、その最近の研究事例として日本ポピュラー音楽学会<sup>2</sup>の修論・卒論発表会の案内より抜粋し、その中から本講義のテーマ

との関連性に鑑み筆者が注目した数例にコメントを適宜加えた。2014年第1回関東地区例会（修士論文・卒業論文発表会）から発表1、浅野裕貴（東京藝術大学音楽学部 音楽環境創造科4年）の「アニソンクラブイベント研究 ～交差するオタク系文化とクラブカルチャー～」をその概要（要旨）<sup>3</sup>とともに示した。そして、2014年第2回関西地区例会（修士論文・卒業論文発表会）からは大野紋佳（神戸山手大学現代社会学部）による発表2「浜崎あゆみー絶望の果てに見つけた居場所<sup>4</sup>」と劉羽潔（関西大学社会学研究科マス・コミュニケーション学専攻修士課程）による発表7「中国の若者におけるジャニーズアイドルの受容<sup>5</sup>」の二例に筆者が着目した理由を簡単に述べた。すなわち、受講生にとって身近な音楽も、社会学その他さまざまなアプローチによる研究が可能であり、当然ながらクラシック音楽を学ぶ学生にも同様にそうした理論的研究が不可欠であり、学問研究の対象としてのポピュラー音楽の側面を知り、音楽ジャンルを問わずそうした学術的認識を合わせ持つことによって、その音楽の理解がより深まっていく可能性を示唆した。そして、講義全体の学習目標として以下の四点を掲げた。

- (1) 現代日本の大衆音楽・芸能文化（ポピュラー音楽とその関連ジャンル）における新しい現象や動向を感じ取り、今、何が起きているかを考える。
- (2) それらに関するマスコミ報道の在り方を検証し、メディアリテラシーを学ぶ。
- (3) パフォーマー、制作者の活動からプロ意識を学び、PVやレコーディングの制作現場を収めた映像を通して商業活動の実態の一端を知る。
- (4) 上記の事柄に受講生自らが問題意識を照らし合わせて得た知見を各自フィードバックする。

そして、より具体的に焦点を絞って考慮すべき内容を次のように示した。

- (1) J-Pop の概念の再検討とメジャー（主流）とマイナー（非主流）の境界の検証。すなわち、テレビ（地上波）への出演頻度、知名度を基準とする時代が終焉を迎えたのではないかという問いかけ。

- (2) ポピュラー音楽は基本的に経済活動（実はクラシックも例外ではない）であり、今や国民的歌手・ミュージシャンは消滅し（あるいはそもそも存在せず？）、よく言われる「国民的アイドル」などはマスメディアによる虚言ではないか？
- (3) パフォーマーの活動の場の拡張、多様化
- a. ライブハウス（インディーズのみならず多様な出演者）の盛況
  - b. テレビ（地上波）の衰退とインターネットの発展・影響力の増大
  - c. メイン局の退潮、ローカル局の勃興、新興勢力としてのネット TV の出現
  - d. 制作・販売方式（CD から I-tune へ）の変化⇔視聴の在り方、ファンの嗜好の変化
  - e. 映像・録音重視（依拠）する一方で、ライブを重視し、複数ジャンルに関わるクロスオーバーアーティスト（パフォーマー）の出現などパフォーマー（アクター、ミュージシャン）の在り方の変化
- (4) メディア報道の偏向性、欺瞞性、虚偽性をエンタテインメントについても検証すべきことを映像ドキュメンタリー「チョムスキーとメディア」の DVD<sup>6</sup> および 関連書籍を通じて学ぶ。

次に対象・内容と方法・視点について、エンタテインメントの世界で人や物が異ジャンル間を自由に往来することによって、複数のジャンルで一流レベルを示すパフォーマーやクリエイターが出現していることと、その活動成果を以下の3つの方向から着目した。

- (1) 演劇（ミュージカルを含む）・映像（アニメ声優を含む）から音楽（主に J-Pop）へ
- (2) 音楽から演劇・映像へ
- (3) 2.5 次元ミュージカル、オリジナルミュージカル、音楽劇の隆盛

特に (3) の 2.5 次元ミュージカルの隆盛によるミュージカルや J-Pop への影響は J-Pop のコンセプトが拡大される可能性、あるいはミュージカルナン

バーの革命とも言えそうな現象が含まれている。その証左として、a. ライブの開催（「テニミュ」、「ブリーチ」ほか）、b. シングルCDの制作販売によってヒットチャートに進出している。c. テニミュの楽曲がカラオケに採用（ex. JOY SOUND ライブ DAM）の三点を挙げた。関連映像としてテニミュのアンコール曲「Jumping Up High Touch!」の録音・録画風景とのアンコール曲〈On my Way〉を鑑賞した。

講義では筆者が近年取り組んでいる研究テーマとの関連から、「歌い始めた演劇人（舞台俳優）」および「芝居ができるミュージシャン（演劇の舞台・映像の世界に進出する）」を、ステージパフォーマーたちの新たな専門性への模索、挑戦、大衆芸能における音楽・演劇・映像のクロスオーバーとしてとらえ、ハイブリッド／クロスオーバー・エンターテナーとも称すべき新しいタイプの演者のカテゴリー形成としてとらえたいと考えた。さらに研究の方向として、演劇における音楽の介在度、関与性の高まりに着目して、最終的には芸能各ジャンルの関係性を図式化することを目指している旨を述べた。その他、以上の事例を考察、討議するとともに、平時の学習やレポート・試験に際しての情報（参考文献、ライブ[ビューイング]、映画など）を提供し、受講生にできる限りそれらを購読、視聴することを促した。以下それらを列挙する（公演・上演の日付は講義期間中のものをそのまま記してある）。

#### 〔文献〕

田原総一郎『電通』朝日新聞社、1984年

週刊金曜日取材班『増補版 電通の正体 マスコミ最大のタブー』金曜日、2006年

森功ほか『誰も書けなかった日本のタブー 原発と山口組と芸能裏人脈編（宝島 SUGOI 文庫）』宝島社、2011年

本間龍『大手広告代理店のすごい舞台裏 電通と博報堂が圧倒的に強い理由』アスペクト、2012年

川端幹人『タブーの正体!：マスコミが「あのこと」に触れない理由（ちくま新書）』ちくま書店、2012年

『ユリイカ 2012年9月臨時増刊号（総特集平成仮面ライダー）』青土社、2012年8月

マキタスポーツ『すべてのJ-POPはパクリである（～現代ポップス論考）』扶桑社、2014

年1月

『ユリイカ 2014年9月臨時増刊号（総特集イケメンスタディーズ）』青土社、2014年7月

〔映像（映画）〕

映画「TOKYO FANTASY SEKAI NO OWARI」2014年9月27日～

テニミュ映画祭 2014年10月18日～31日 109シネマズ名古屋

映画「ピーター・ブルックの世界—世界一受けたいお稽古」上映中～2014年10月31日（未定）名演小劇場

映画「さまよう小指」2014年10月10日まで名古屋シネマスコーレ

映画「TOKYO TRIBE」2014年10月11日～24日、伏見ミリオン座

映画「ぼんとリンちゃん」2014年10月11日～、シネマテーク

映画「日々ロック」2014年11月22日～、ミッドランドスクエアシネマ

〔ライブ（ビューイング）〕

ミュージカル「黒執事」ライブビューイング、2014年10月5日18:00 ミッドランドスクエアシネマ

仮面ライダー鎧武ファイナルステージ&番組キャストトークショーライブビューイング、2014年10月12日

舞台「弱虫ペダル箱根学園篇～野獣覚醒」ライブビューイング 2014年11月3日、109シネマズ名古屋

映画「ボーカロイドオペラ葵上」2014年11月22日～12月5日、シネマスコーレ

また、レポート執筆用の映像インフォメーションとして以下の情報を与えた。

〔映画〕

「仮面ライダー×仮面ライダーライブ&鎧武 MOVIE 作戦フルスロットル」全国12月13日～

「列車戦隊トッキュウジャー VS キョウリュウジャー THE MOVIE」全国2015年1月17日～

〔ライブまたはライブビューイング〕

「ライブビューイング・ジャパン」のHPから対象を選択

- (1) 「世界が見たラルク、ラルクが見た世界 Over the L'arc-en- ciel」 12月5日～12日
- (2) 「EIKICHI YAZAWA CONCERT TOUR 2014 [VERY ROCKS~ROAD TO THE LEGEND~]」  
12月14日 17:30~
- (3) 「MAN WITH A MISSION [PLAY WHAT U WANT TOUR]」 12月20日 17:00~
- (4) 「宝塚歌劇 100周年フィナーレイベント 『タカラヅカスペシャル 2014-Thank you for 100years-』」 12月21日、12月22日 15:00~
- (5) 「直送ももクロ vol.19 平面革命 『ももいろクリスマス 2014 さいたまスーパーアリーナ大会～ Shining Snow Story ～』」 12月24日、12月25日 18:30~
- (6) 「MEN ON STYLE 2014」 12月26日 19:00~
- (7) 「EXILE TRIBE PERFECT YEAR LIVE TOUR TOWER OF WISH 2014~THE REVOLUTION~」 12月28日 17:00~
- (8) 「10thANNIVERSARY SUPER HANDSOME LIVE 2014 ～ EVERLASTING SHOW～」 12月28日 19:00~
- (9) サザンオールスターズ年越しライブ 2014 「ひつじだよ！全員集合！」 12月31日

## II 学習内容

次に具体的な学習内容をトピック別に整理して示す。

### 1 近年のオリジナルミュージカル～ J-Pop との関係性を見る

まず、「日本でミュージカルを送り出しているのはこの集団！」(『演劇プルミエ No.1』誠文堂新光社、2009年1月1日)を元に作成した図を示した。

近年のオリジナルミュージカルの2つの演目を通して、ミュージカル界の状況変化、J-Pop との関係性を見るという目標を掲げるとともに、2.5次元ミュージカル協会のHPで範疇を把握することを受講生の課題とした。鑑賞映像は次のとおりである。

8 その他のプロダクション

\*ピュアーマリー  
「HONK!」「アプローズ」  
「ステップिंगアウト」  
\*劇団東少（三越ファミリー劇場）  
「人魚姫」「孫悟空」  
「日本昔話」

5 テレビ局制作

\*フジテレビ  
「THE PRODUCERS」  
「ボーイ・フロム・オズ」  
「愛と青春の宝塚」  
「タイタニック」  
\*TBS  
「星の王子様」「マッスル・ミュージカル」  
「CHICAGO」

\*日本テレビ  
「アニー」

1 大規模プロダクション

\*東宝  
座長型：「ラ・マンチャの男」「マイ・フェア・レディ」  
「ミー & マイガール」  
輸入プロダクション：「レ・ミゼラブル」  
「ミス・サイゴン」「回転木馬」  
オリジナル：「風と共に去りぬ」「ローマの休日」「十二夜」  
小劇場：「レベッカ」「レント」「シーズンを探して」  
\*松竹  
「ファルセット」「雨に唄えば」

2 芸能プロダクション

\*ホリプロ  
「スウィーニー・トッド」「ベテン師と詐欺師」「ドロウジー・シャペロン」  
\*ジャニーズ事務所  
「PLAYZONE」  
「Shock」  
「DREAM BOYS」  
\*ワタナベエンターテイメント  
「ザ・ヒットパレード～ショウと私を愛した夫～」  
\*ハロー・プロジェクト  
「リボンの騎士」  
「シンデレラ」

6 2.5次元ミュージカル「テニスの王子様」ほか

7 俳優中心のプロダクション  
\*タナボタ企画  
「林くんと岡さん」「新血鬼 DRACULA」  
「NOTHING BUT MUSICALS」  
\*K-LINKS（島田歌穂）  
「FREDDIE」  
「DOWNTOWN FOLLIES」

3 演出家中心のプロダクション

\*TSミュージカルファンデーション  
「タン・ビエットの唄」「Calli～炎の女カルメン」  
「AKURO 悪路」  
\*ミュージカル座  
「アイ・ハブ・ア・ドリーム」「ひめゆり」「ルルドの奇跡」

4 劇場制作によるプロダクション

\*コマ・スタジアム  
「シンデレラ」「オズの魔法使い」「ピーターパン」  
\*PARCO 劇場  
「キャバレー」「シンデレラストーリー」  
「Triangle ～ルームシェアのススメ～」  
\*新国立劇場  
「太平洋序曲」  
「INTO THE WOODS」

9 劇団

\*宝塚劇団  
外来ミュージカル：「エリザベート」「WEST SIDE STORY」「ミー & マイガール」  
オリジナルミュージカル：「華麗なるギャッビー」  
「Paradise Prince」  
\*劇団四季  
外来ミュージカル：「ライオンキング」「オペラ座の怪人」  
「マンマ・ミーア」  
オリジナルミュージカル：「李香蘭」「夢から醒めた夢」  
ファミリーミュージカル：「人間になりたかった猫」  
\*音楽座ミュージカル  
「マドモアゼル・モーツァルト」「リトルプリンス」  
\*劇団スイセイ・ミュージカル  
外来ミュージカル：「FAME」  
「サウンド・オブ・ミュージック」  
オリジナルミュージカル：「夢があるから!」  
\*劇団わらび座「アルティ」  
「火の鳥」

(1) ロックミュージカル「ブリーチ」

「ROCK MUSICAL BLEACH THE ALL」(2008年3月30日の公演)より冒頭を放映して楽曲、伴奏のサウンドの特徴や歌唱法(発声)に特質に注目させた。

(2) ミュージカル「ボクは、十二単衣に恋をする」(公演時期:2010年10月27日~11月7日)

(2)のような「ジュークボックスミュージカル」とはポピュラー音楽の既製の楽曲を元に音楽を構成したもので、例えばミュージカル「マンマ・ミーア」(ABBAの楽曲)などがあり、本演目は大黒摩季の楽曲×源氏物語となっている。

## 2 音楽映画、音楽劇から知る J-Pop の一側面

近年公開された音楽映画のいくつかのシーンから J-Pop に関する諸問題や制作意図を探るべく以下の例を抜粋鑑賞した。

(1) 映画「ビートルock☆ラブ」(2009年)

キャストは荒木宏文、武瑠(SUG)、桐山漣、大河元気、小野賢斗ほか。主題歌は「Shout it Loud」LOVE DIVING(ポニーキャニオン)である。ここで設定したキーワード、キーポイントはヴィジュアル系、ライブハウス、メジャーデビューで、実際、荒木はこの映画公開の翌年12月にD☆DATEを結成している。その他DVDには参考映像として「LOVE DIVING プレミアムイベント(2009年3月14日)」が収録されている。

(2) 映画「音楽人」(2010年)

キャストは佐野和真、桐谷美玲、徳澤直子、足立梨花、加藤慶祐、古原靖久、片桐舞子(MAY'S)、NAUGHTY BO-Z(MAY'S)、高橋ジョージ、主題歌はMAY'S「星の数だけ抱きしめて」、挿入歌はMAY'S「永遠」、KG「きっと、ずっと duet with MAY'S」である。

クラシック専門の音大とは対照的な音楽専門学校の学科構成(ギタークラフト科、音響など)の様子や音楽と映画の関係性に注目しながら鑑賞した。主題歌及び挿入歌を担当しているMAY'Sのメンバー二人も同映画に出演おり、挿入歌の「きっと、ずっと duet with MAY'S」のPVには佐野和真



と桐谷美玲が出演し、映画とタイアップしている。

(3) 映画「カノジョは嘘を愛しすぎてる」(2013年)

キャストは佐藤健、三浦翔平、窪田正孝、水田航生、浅香航大、吉沢亮、森永悠希ほか。劇中歌はすべて音楽プロデューサーの亀田誠治による作詞、作曲、プロデュースで、「卒業」(CRUDE PLAY)、「INSECTICIDE」(CRUDE PLAY)、「うたうたいのうた」(ハッポ☆スチロールズ)、「サヨナラの準備は、もうできていた」(CRUDE PLAY)、「卒業 アコースティック ver. (小枝理子&小笠原秋) ほかが含まれている。鑑賞のキーワードを「クリエイター」、「ゴーストライター」、「嘘」とし、実際、CRUDE PLAYはCDデビューしている点にもJ-Popと映画の関係性が見られることを指摘した。最後に制作委員会方式という用語、これが現在の映画製作の主流となっており、(3)の制作委員会はフジテレビジョン、アミューズ、小学館、東宝、ROBOT(クリエイティブプロダクション)であることを説明した。

### 3 音楽映画、音楽劇から知るJ-Popの一側面(その2)

(1) 映画「アリーナ・ロマンス」(2007年)

本作の鑑賞ではJ-Popの拡散として、オタク映画で描かれている音楽状況を見ることを主眼とした。理解の補助として、ヲタ芸、アイドルオタク用語、オリキ用語を映画のプログラム解説より次のように抜粋した。

ヲタ芸→〈OAD〉〈ロマンス〉〈ロミオ〉〈マワリ〉〈PPPH〉

アイドルオタク→〈コン、コンサ〉〈参戦〉〈チケ〉〈サイ〉〈レス〉〈推し〉〈ヲタ〉〈DD〉  
〈STK〉

オリキ→〈オリキ〉〈担当〉〈自担〉〈トップさん〉〈オキニ〉〈茶の間〉〈お手振り〉  
〈出待ち〉〈落とし込み〉〈つながる〉〈やらかし〉

そして、同作品からは以下の問題が考えられることを示した。

- a. 音楽、映画、演劇の制作業務形態、演奏会場の多様化、すなわち、ホール・劇場、ドーム(室内・野外)、ライブハウス、アリーナ
- b. ファンの動向、心理、行動様式などの制作側への働きかけ、反映
- c. クリエーターの活動の場の拡大(ex. 音楽劇へ楽曲提供)

- d. メジャー（主流）とマイナー（非主流、傍流）の線引きの形骸化
- e. プロとアマチュアの創作・演奏レベル、それぞれの満たすべき必須条件の見直し

#### 4 俳優の音楽活動について～J-Pop への影響

若手舞台（映画）俳優の活動範囲の拡大に注目し、加藤和樹、鎌刈健太（ココア男。）ほかを対象に以下の点について概観した。

##### (1) 舞台（ストレートプレイ）俳優が歌うこと

舞台（演劇）俳優はセリフやアクションなど多くの点において、テレビドラマ、映画俳優とは発声法、発音のテクニック、演技力のレベルが異なる（総体的に高い）と思われるが、その音楽活動へのメリットはどのようなことが考えられるか？

##### (2) その音楽活動と映画、2.5次元ミュージカルへの出演との関係性はどうか。

(1)、(2) の状況を考えるために、加藤和樹、鎌刈健太（ココア男。）の音楽活動と映画・舞台出演の中から、加藤和樹のファーストライブ「Kazuki Kato Live“GIG”2006」（2006年5月5日、Shibuya O-West）とココア男。最後のワンマンライブ「ココア男。ライブツアー2012」（2012年1月21日、Shibuya AX）に言及し、参考映像として、ライブ「MEN-tertainment～メンタメ2011～」(2011年6月15日～6月26日 ル・テアトル銀座、2011年9月17日～9月18日 シアタードラマシティ) より加藤和樹とココア男。の出演シーンを鑑賞した。曲目は次のとおりである。

加藤和樹 〈Love Blue〉 〈instinctive love〉

ココア男。 〈Rebirth → Let me free ～強引なほど、、、 Soldier〉

そして、DVDの解説文からも音楽と演劇の新しい関係性が窺えることを確認した。以下その引用である。

ミュージシャン、ロックバンド、俳優、タレントなど、ジャンルやユニットの枠を越

えて集まった総勢約 20 組に及ぶ男性アーティストたちが、「音楽」を共通言語に繰り広げる劇場型エンタテインメントライブ。男性アーティストたちによる史上初の劇場型エンタテインメントライブ DVD

ミュージシャン、ロックバンド、俳優、タレント…ジャンルやユニットの枠を越えて、男性アーティスト達が劇場に大集結!! 「音楽」を共通言語に夢の舞台を繰り広げる…それが「MEN-ertainment ～メンタメ 2011～」!! 総勢約 20 組にも及ぶ豪華出演者が、驚嘆必至のコラボレーションの数々。今作品(DVD)は 2011 年 6 月 20 日(月)公演を収録

さらに、鎌刈健太のミュージカル出演(主演)作から以下の二例を鑑賞した。

(1) ミュージカル「エアギア vs. BACCHUS Top Gear Remix」(2010 年 4 月 9 日～16 日、東京・日本青年館) 出演者は鎌刈健太、米原幸佑(RUN&GUN)、KENN、齋藤ヤスカほかで、鑑賞楽曲は M-2 〈空へ〉、M-3 〈時の支配者(アイオン・クロック)〉、M-4 〈YOU'RE UNDER ARREST!〉、M-5 〈月光の輪舞曲(ロンド)〉である。

(2) スーパーミュージカル「聖闘士星矢」(2011 年 7 月 28 日～31 日、全労済ホール/スペースゼロ) 出演者は鎌刈健太、富田麻帆、湯澤幸一郎、齋藤ヤスカほかで、鑑賞楽曲は M-16 〈闇と光〉、M-17 〈小宇宙・完全燃焼〉、M-19 〈SAINT (Reprise)〉である。そして、後者の「オペラのようなミュージカル」という演出家および作曲家のコメントが考察に値することを提示した。

## 5 若手舞台(映画)俳優の活動範囲の拡大(4の続編)

ここでは TV のローカル局およびメイン局の深夜番組(音楽芸能に関する)の試みに着目し、以下の例を鑑賞した。

(1)D ☆ DATE、D-BOYS のライブ映像より

「あと 1cm のミライ」「CHANGE my LIFE」「DAY BY DAY」ほか

D-BOYSの深夜テレビ番組として、「D-BOYS BE AMBICIOUS」、「D×TOWN」、「局中音楽館」（「局中法度」の音楽コーナー）やミュージカル「忍たま乱太郎」への出演に言及し、それはチームしゃちほこ、SKE、ボーイメン、私立恵比寿中学とその出演番組の「EBiDAN」、「超×D」ほかの売り出し方とも類似している点を指摘し、参考映像として(2)舞台「D-BOYS STAGE vol.3 鴉」<sup>7</sup>の冒頭を鑑賞した。

## 6 ローカルTV局の挑戦と深夜の（音楽）番組の新しい状況（その1）

トピックを「方言によるポップスの展開の可能性」として、往年の笠置シズ子の「買い物ブギ」から近年の「方言革命」まで方言歌曲の例を挙げ、研究対象として可能性を考えた。まず、全国的に話題になった著名な例として笠置シズ子「買い物ブギ」を鑑賞し、次にテレビドラマの方言を考えるという主旨から、「NHK朝ドラ」から「みんなエスパーだよ」「方言彼氏」「方言彼女」までテレビ番組で使用されている方言のヴァーチャル性、リアリティの様相を考え、映像はローカル局のテレビ番組「方言彼氏」の一部を鑑賞した。

方言歌曲の例としては、吉幾三「俺ら東京さ行くだ」（1984年）、EASTEND×YURI「DA.YO.NE.」（1994年）の「地方ヴァージョン」、伊藤秀志『御訛り』（2003年）収録の平井堅「大きな古時計」（伊藤秀志によるZuzuヴァージョン＝東北弁による歌唱）の存在を確認し、最後に最近の例として朝倉さや（『方言革命』に収録）によるゴールデンボンバーの楽曲「女々しくて」（2014年）の東北弁ヴァージョンを鑑賞した。

## 7 ローカルTV局の挑戦と深夜の音楽番組の新しい状況（その2）

ここではアーティストの売り出し方に見るオルタナティブメディアの活用例として「スタダ系」という呼称に着目し、スターダストプロモーションを中心にその他の芸能事務所のセールス戦略・攻勢の具体的状況を見た。私立恵比寿中学、EBiDAN、超×D、ボーイメンほかの冠番組と活動（テレビ番組やアニメソングの担当など）を概観し、最近ではHMVの店頭下記のようなポスターが張られ、専門コーナーが設けられていることを紹介した（撮影は筆者）。

そして、DISH//、超特急、新里宏太といった「非アイドル系」と称される



＜EBIDAN とは＞恵比寿学園男子部（通称・EBIDAN）。ももいろクローバーZ、柴咲コウ、市原隼人などが所属する芸能プロダクション「スターダストプロモーション」に在籍し、明日のスターを夢見る、幼稚園児から高校生まで、総勢約 100 名の個性豊かな全国の少年達が集まったユニット。

若手ミュージシャンに焦点を当て、目下、男性のみに適応されている（と思われる）同呼称に込められた意味とイメージを探ってみた。超特急の楽曲映像は「ikki!!!」と「Bloody Night」（深夜枠のテレビドラマ「ヴァンパイアヘブン」のエンディング・テーマ）およびダンスシーンを鑑賞し、DISH// のタイアップ曲には「FLAME」（テレビ東京系アニメーション「NARUTO-ナルト-疾風伝」のエンディング・テーマ）や「GRAND HAPPY」（中京テレビ「DISH// だし!」毎週土曜深夜 1:20 ～のオープニング・テーマ）の存在を挙げた。

DISH// の映像として「いつかはメリークリスマス」（Short Ver.）と台湾キャンペーン&ライブの様子を見ることで、テレビ（特にメイン局）出演が人気のバロメーターであるという見方がもはや通用しなくなったことを確認した。それから、スタダ系以外の例として、新里宏太の「ワンピース」の主題歌「HANDS UP!」、「土曜プレミアム ONE PIECE エピソードオブルフィ〜ハンドアイランドの冒険〜」の主題歌「ウィーアー」があり、その歌唱力の高さに注目した。

## 8 舞台・映像に進出するミュージシャン（その1 ユニット）

ここでの対象は歌って踊れて舞台演技もできる（そして各方面に高水準）3組のダンス・ヴォーカルユニットを、メンバー構成の多様性、ヴォーカル、ラップ、コーラス、ダンスなどの得意な役割分担の視点から取り上げた。

### (1)AAA（以下、公式 HP に掲載されている経歴を引用する）

男女7人組のスーパーパフォーマンスグループ。西島隆弘（ニシジマタカヒロ）、宇野実彩子（ウノミサコ）、浦田直也（ウラタナオヤ）、日高光啓（ヒダカミツヒロ）、與真司郎（アタエシンジロウ）、末吉秀太（スエヨシシュウタ）、伊藤千晃（イトウチアキ）。2005年9月14日にシングル「BLOOD on FIRE」でデビュー。2015年4月～AAA初のアジアツアー「AAA ASIA TOUR 2015 -ATTACK ALL AROUND- Supported by KOJI」開催が決定している。同年5月～7月には10周年 Anniversary ツアー「AAA ARENA TOUR 2015 10th Anniversary -Attack All Around-」開催決定。2015年9月14日でデビュー10周年を迎える。

ここで注目すべきは「ヴォーカル」「ダンス」などアーティストの売り文句として特定の項目が強調されていない点で、スーパーパフォーマンスとは総合性、多様性重視ということになるだろうか。特に西島隆弘の活躍は映画「愛のむきだし」ほか、舞台「リンダリンダ」ほかに見られるとおり、突出していることを指摘し、舞台「リンダリンダ」の冒頭を鑑賞した。次にヴォーカル、ダンスに秀でている好例としてLeadとw-inds（ともに所属事務所はライジングプロダクション）のアジア（特に台湾）に進出するJ-Popの一例として考え、アジアにおけるJ-Pop受容の視点を加味して、この10年という視点から感じられる変化を考察する必要性を確認した。

Leadはその公式HPに「谷内伸也、古屋敬多、鍵本輝からなるダンスボーカルユニット。終始踊り続ける持久力とシンクロ率の高いキレのあるダンスが魅力の実力派ダンスボーカルユニット。2014年7月にデビュー12年を迎え大人なイケメンに成長した彼らの顔面偏差値の高さとダンスの切れ味とは裏腹な、どこか頼りない3枚目キャラクターのギャップが人の心を虜にする」と書かれている。鑑賞したのはa. ミュージックビデオのメイキングと

PVの「Upturn」（2013年6月）およびb.ライブ映像（4人メンバー時代）「Lead10thAnniversaryLive」（2011年8月21日、中野サンプラザ）より - Opening - と「HURRICANE」「Special Medley」および特典映像「Back Stage Document」である。

その他、講義では取り上げなかったが、舞台映像の例として、舞台「日の丸レストラン」や初期の出演作の映画「かまち」、テレビドラマおよび映画の「Deep Love」、近年では舞台および映画「俺たちに明日はある」、ミュージカル「少年よ大紙を抱け」など多数の注目作が思い起こされる。

w-indsはヴォーカル・ダンスの橘慶太と、コーラス・ラップ・ダンスの千葉涼平、緒方龍一3人組のダンスボーカルユニットで、上記の二組に比して音楽活動中心である印象が強い。講義では以下の映像2例を放映した。

(1) ライブ映像→「Live Tour 2007“Journey”」より

Opening VTR ～ THIS IS OURSHOW・・・Double Enc1「四季」

(2) 台湾ツアードキュメント映像より

その他、Panicrew、EMALF、DIAMOND ☆ DOGS、SWANKY DANKほかの活動にもこのようなアプローチが可能ではないかと指摘した。

## 9 舞台・映像に進出するミュージシャン（その2 ソロ）

中河内雅貴、松下優也の活動に見るエンターテイナーのニューモデル、すなわち音楽（ライブ・録音）・映像（映画・テレビ）・演劇（ミュージカルを含む）の各分野に新しい風を起こしているこの2人からは、大手マスコミがほとんど取り上げない映画・演劇・ミュージカル・音楽の新しい状況が感じ取れると考えた。松下優也の経歴については公式HPより引用した。

2008年11月26日シングル「foolish foolish」でデビュー。2010年6月2日に1stアルバム『I AM ME』をリリース。オリコンデイリーチャート初登場7位、オリコンウィークリーチャート15位を記録。2011年5月4日にリリースした8thシングル「Naturally」は、女性ファッション・ブランド『NATURAL BEAUTY BASIC』の

CMソングとして話題となり、オリコンデイリーチャート初登場4位、ウィークリーチャート9位を記録。2011年8月24日に9thシングル「SUPER DRIVE」をリリース。2011年8月6日から全国8か所を廻る全国ツアー「松下優也 Live Tour 2011～SUPER DRIVE～」を開催。2011年12月には東京国立代々木第一体育館で開催された『マイケル・ジャクソン トリビュート・ライブ』のソング・ステージにアーティストとして最年少出演し大きな注目を集める。2012年1月25日にはニューシングル「キミへのラブソング～10年先も～」をリリースし、オリコンデイリーランキング初登場5位を記録。2月22日には待望の2ndアルバム『2U』をリリースし、3月から全22個所の大規模な全国ツアーを敢行する。また、TBS・MBS系ドラマ「カルテット」では主演&主題歌をつとめ、2011年7月スタートの東海テレビ・フジテレビ系昼ドラ「明日の光をつかめ2」に出演し大きな反響を得る等、俳優としても注目を集めている。7月3日より東京新国立劇場で上演されたミュージカル「Dream High」では主役であるソン・サムドン役を好演。7月5日よりフジテレビ“ノイタミナ”アニメ「夏雪ランデブー」オープニング・テーマとして起用された「SEE YOU」は、8月29日にリリースが決定。「SEE YOU」着ムービーは、「SUPER DRIVE」、「キミへのラブソング～10年先も～」に続き、レコチョク着信ムービーランキングで3作品連続の週間1位を獲得。また、8月21日の渋谷WWWを皮切りに夏のライブツアー「YUYA MATSUSHITA LIVE TOUR 2012～SUPPORTED by SHIONOGI～」が開催。

まず、音楽映像(PVおよびライブ)より次の3例を鑑賞した。(1)「YOU」(2)「キミへのラブソング～10年先も～」(3)「Back to Love」(taken from the live footage “LIVE 2010~Evolution of Me~”SHIBUYA AX 2010.11.12)。次に、近年の注目すべき活動として、X4の結成に注目した。以下、HPより引用する。

2015年より、松下優也は新ユニット「X4」(エックスフォー)での活動をスタートいたします!そして、2015年3月よりツアーも決定!松下優也モバイルでは超最速チケット先行を行う予定です!随時、情報を発表させていただきますので楽しみにしててくださいね!

X4 1st TOUR 2015

2015年3月20日(金)福岡 BEAT STATION



2015年3月21日(土) 熊本 Django  
2015年3月22日(日) 鹿児島 CAPARVO HALL  
2015年3月25日(水) 埼玉 さいたま新都心 HEAVEN'S ROCK  
2015年3月28日(土) 京都 MUSE  
2015年3月29日(日) 石川 金沢 AZ  
2015年4月01日(水) 茨城 水戸 LIGHT HOUSE  
2015年4月03日(金) 香川 高松 MONSTER  
2015年4月04日(土) 岡山 IMAGE  
2015年4月05日(日) 広島 CLUB QUATTRO  
2015年4月09日(木) 静岡 浜松窓枠  
2015年4月10日(金) 神奈川 新横浜 NEW SIDE BEACH  
2015年4月12日(日) 千葉 柏 PALOOZA  
2015年4月15日(水) 埼玉 熊谷 HEAVEN'S ROCK  
2015年4月17日(金) 宮城 仙台 darwin  
2015年4月19日(日) 北海道 札幌 cube garden  
2015年4月24日(金) 兵庫 神戸 varit  
2015年4月25日(土) 大阪 心斎橋 BIG CAT  
2015年4月26日(日) 愛知 名古屋 CLUB QUATTRO  
2015年4月29日(水) 東京 渋谷 TSUTAYA O-EAST

そして、彼の舞台・ミュージカル界への進出については、下記のようにまとめて示した。

- a. 音楽舞闘会「黒執事 ～その執事、友好～」(2009年) 主演 セバスチャン・ミカエリス 役
- b. ミュージカル黒執事「The Most Beautiful DEATH in The World- 千の魂と堕ちた死神」(2010年、赤坂 Act シアター、ほか) 主演 セバスチャン・ミカエリス 役
- c. ミュージカル『ドリームハイ』(2012年) 主演 ソン・サムドン 役
- d. バグズグバリュー ～ even more BURSTING ～ (2013年3月)
- e. ミュージカル「黒執事 -The Most Beautiful DEATH in The World- 千の魂と堕ちた死神」(2013年6月、赤坂 Act シアター、ほか) 主演 セバスチャン・ミカエリス 役

- f. THE ALUCARD SHOW」(ジ・アルカード・ショー) (2013年8月、東京 AiiA Theater) 主演 ブラド 役
- g. 「私のホストちゃん」(2013年10月、青山劇場) 影規 役
- h. Paco ～パコと魔法の絵本～ from 「ガマ王子 vs ザリガニ魔人」(2014年2月7日～3月21日 東京 日比谷シアタークリエ／金沢／仙台／大阪／広島／名古屋／福岡／南相馬 全37公演) - 室町 役
- i. Broadway Musical 『IN THE HEIGHTS』(イン・ザ・ハイツ) (2014年4月4日～5月11日 東京 Bunkamura シアターコクーン／大阪／福岡／横浜 全30公演) 主演 ベニー 役
- j. 舞台『タンブリング F I N A L』(2014年6月7日～7月21日 横浜／大阪／東京 全14公演) 主演 望月宙 役
- k. ミュージカル「黒執事ー地に燃えるリコリス」(2014年9月5日～10月5日 東京／大阪 全34公演) 主演 セバスチャン・ミカエリス 役
- l. エンターテイメント・パフォーマンスショー『THE ALUCARD SHOW』(ジ・アルカード・ショー) (2014年11月14日～11月24日 東京 全15公演) 主演 ヴラド 役
- m. 舞台『私のホストちゃん～血闘！福岡中洲編～』(2014年12月9日～12月11日) 影規 役 (ゲスト出演)

音楽(ダンス、歌)から映画、舞台へ進出した中河内雅貴は公式HPに略歴が次のように記されている。

2000年からダンスを習い始める。ジャズダンスとクラシックバレエを瀬川ナミ氏に師事、後にインストラクターも担当。また歌唱(声楽)も2003年より始め、04年「JUNON スーパーボーイコンテスト」最終選考会出場や、ダンスコンテストで賞を得るなど、注目される。06年オーディションでミュージカルの役就き出演を得て、現在に至る。舞台、映像で活躍中。

まず、音楽映像はライブ「MASATAKA NAKAGAUCHI 1st LIVE」(2008年6月21日赤坂BLITZ)より「僕がいる」を鑑賞した。次に舞台のSTRAIGHT

ROCK PLAY「4strike」を取り上げたいと考えたが、映像ソフトが未入手のため上演の基本情報の紹介のみに止めた。

企画・原案 中河内雅貴 脚本 菊地創 演出 岡本貴也  
東京公演 2012年10月10日～10月20日 新宿FACE  
大阪公演 2012年10月23日～24日 心齋橋BIGCAT

同舞台はニコニコ生放送でも舞台鑑賞チケット（1,800円）が販売され配信されており（2012年10月19日）、その概要は次のとおりである（上記のニコニコ動画の同演目サイトより）。

27歳にして、いまだ定職にも就かず、人生の目的もこれといった夢もないバイト仲間の2人。不安を持たないわけじゃないが、突破口も見つからず、ただ日々をやり過ごしてただけのKENTA（宮下雄也）。やる気と思いつきだけは常にあるが、裏付けはなく、“自分を捜す”旅をくりかえすTAKASHI（中河内雅貴）。ある日、旅から戻ったTAKASHIがKENTAに言う。“音楽だ！”“俺は音楽という新しい旅にでるんだ！”TAKASHIはいつもこうだ。そこにKENTAが巻き込まれる。そんな2人に会う、学校にも、未来にも、何も見えない19歳のAKI（佐藤永典）と、バンドマンの夢を捨て、恋人との将来を考えるRIKU（藤原祐規）。“バンドやろうぜ！”TAKASHIの思いつきが、3人の背中を押す。諦めていた“夢をみる”力を思い出させる。だが、AKIには、誰にも言えない秘密があった。

中河内の舞台の例は「博士と太郎の異常な愛情」<sup>8</sup>より冒の部分を鑑賞した。以上の2人の今後の活動を追うことによって、彼らに関わるジャンルにおいて起こる変化、新しい動きを感じ取ることができと言えるだろう。

## 10 J-Popの新しい流れ（現象）の形成と変化

SEKAI NO OWARI、ゴールデンボンバー、ROOTFIVEを通して、近年一般的な注目度が急上昇したミュージシャンと2.5次元アーティストのアニソン、キャラソンJ-Popへ進出を考えた。

## SEKAI NO OWARI（以下、公式 HP より）

2010年、突如音楽シーンに現れた4人組バンド「SEKAI NO OWARI」。同年4月1stアルバム「EARTH」をリリース後、2011年8月にTOY'S FACTORYよりメジャーデビュー。メジャーデビューから約3ヶ月後に行われた、自身初の日本武道館でのワンマン公演、続いて行われた全国ツアーも全てチケットはSOLD OUTするなど、全国的にも高い注目を集めている。2013年には、LADY GAGAやMADONNAのライブプロモーターとして知られるLive Nationと提携し、海外展開をスタート。5月1日には、「映画クレヨンしんちゃん バカうまっ！B級グルメサバイバル！！」主題歌「RPG」をリリース。2014年、全国9箇所15公演20万人動員の全国アリーナツアーを完遂。また、同年8月には、初の映画作品「TOKYO FANTASY」の公開。10月には、富士急ハイランドにて、「TOKYO FANTASY」と銘打った、6万人規模の野外ワンマンライブの開催。圧倒的なポップセンスとキャッチーな存在感、テーマパークの様な世界観溢れるライブ演出で、子供から大人まで幅広いリスナーにアプローチ、「セカオワ現象」とも呼ばれる加速度的なスピード感で認知を拡大した。そして、2015年1月14日には、待望のニューアルバム「Tree」のリリースが決定。また、同年7月18日、19日には日本最大規模の会場日産スタジアムにて、のべ14万人動員のライブが決定。凄まじいスピードで進化を遂げながら、音楽シーンを席卷している新世代の才能である。

### ・CD「スノーマジックファンタジー」と「銀河街の悪夢」の鑑賞

後者の楽曲の鑑賞後、楽曲の終盤で聴かれる鉄道踏切の効果音（警報）から〈自殺〉のイメージを感じるという聴講の台湾留学生から有意義な指摘もあった。映画「TOKYO FANTASY」<sup>9</sup>では従来のメジャーアーティストが支配する旧体制の終わりの意味を感じ取れることを示した。

### ゴールデンボンバー（公式 HP よりプロフィール）

2004年ボーカル鬼龍院翔とギター喜矢武豊を中心に結成。笑撃のライブパフォーマンスと、奇才・鬼龍院翔の創り出すクオリティーの高い楽曲で注目の究極のエアーバンド。2008年には、5ヶ月連続で「抱きしめてシュヴァルツ」「元カレ殺ス」「トラウマキャバ嬢」などのシングルリリースを行い、インディーズながらセールスは

3000 枚を超える。2009 年元旦には、コンセプトミニアルバム「イミテーション・ワールド～金爆の名曲二番搾り～」をリリース。ニュージャンルとも言えるこの "二番搾り" アルバムは、NACK5 や FM802 でもオンエアされ、YouTube やニコニコ動画などの動画サイトで話題沸騰。同年 6 月には、PlayStation2 専用ソフト "スキップ・ビート！ (白泉社「花とゆめ」にて連載中の人気少女漫画「スキップ・ビート！」初ゲーム化)" のエンディング・テーマ曲「タイムマシンが欲しいよ」がリリースとなる。7 月には、主演&監督&脚本&撮影&編集を全てメンバーが行った映画「剃り残した夏」を製作し、上映会の開催および DVD 化。同日、オリジナルサウンドトラック「剃り残した夏」もリリース。同年 10 月 21 日に発売したシングル「女々しくて」は、オリコン (オリジナルチャート) 初登場 77 位、同インディーズチャート 4 位となる。また、2009 年は毎月第一日曜日に 12 ヶ月連続ワンマンを高田馬場 CLUB PHASE で行い、9 月以降は全てソールドアウト。

同時に約 1 年をかけて全国 47 都道府県ツアーを行うなど、勢力的に活動。2010 年は、dwango.jp にて 12 ヶ月連続配信を行い、12 ヶ月連続 1 位を獲得。2009 年に引き続き、12 ヶ月連続ワンマンを大阪・名古屋・東京を 1 クールとして敢行し、即日ソールドアウト。またニコニコ動画で、ガチュピン動画やシングル PV「女々しくて」が 240 万回再生を突破し、ワンマンライブを生中継するなど、その活動は他に類をみない。同年 4 月からはゴールデンボンバー初となる "恐怖の全国ワンマンツアー 'ワンマンこわい'" (全国 15 ヶ所+追加公演 1 ヶ所) は、ほとんどの会場をソールドアウトさせる。同 10 月 6 日には、dwango.jp にて 8 月に配信し 1 位を獲得した「また君に番号を聞けなかった」を 2010 年初シングルとしてリリースし、オリコン (オリジナルチャート) で初登場 4 位を獲得する。」2011 年 1 月 6 日、dwango.jp にて全曲 1 位を獲得した下半期 6 曲が収録された「ゴールデン・アワー ～下半期ベスト 2010～」発売し、オリコンデイリーチャート初登場 1 位、同ウィークリーチャート初登場 3 位、TOWER RECORDS ウィークリーチャート 1 位を獲得する。同 3 月より全国ワンマンツアー "Life is all right" を開始、追加公演である TOKYO DOME CITY HALL を含む全会場をソールドアウトさせる。同 6 月 1 日、テレビ東京系列アニメ「遊☆戯☆王 ZEXAL」エンディング・テーマを収録したシングル「僕クエスト」を発売し、オリコンウィークリーチャート初登場 5 位、TOWER RECORDS ウィークリーチャート 1 位を獲得する。同 8 月 24 日、シングル「女々しくて / 眠たくて」発売。収録曲「眠た

くて」はハウス食品「メガシャキ」のCMソングとしてオンエア中。オリコンウィークリーチャート初登場4位獲得。9月2日、テレビ朝日「ミュージックステーション」に出演を果たし、「女々しくて」を披露した。同9月23日より、Zepp全通ツアー「やればできる子」を敢行、チケットは即日ソールドアウト。同11月23日、シングル「酔わせてモヒート」発売。オリコンウィークリーチャート初登場3位を獲得する。2012年1月4日、初のオリジナルフルアルバム「ゴールデン・アルバム」をリリース。オリコンウィークリーチャート初登場2位を獲得する。同1月14日15日に日本武道館、21日に大阪城ホールでワンマンライブ「一生バカ特大号」を行い、チケットは即日ソールドアウトさせる。同3月20日より、全国ツアー「Oh! 金爆ピック〜愛の聖火リレー〜」敢行、横浜アリーナ2daysを含む全国28ヶ所31公演全てのチケットをソールドアウトさせる。同12月31日、「第63回NHK紅白歌合戦」に出場。歌唱曲「女々しくて」(2009年10月発売)が翌2013年1月14付オリコンチャートで4位に浮上。2013年1月1日シングル「Dance My Generation」発売。インディーズ史上初のオリコン初登場1位を獲得。2013年4月24日アルバム「ザ・パスト・マスターズ vol.1」発売。インディーズ史上初のシングル&アルバムでのオリコン初登場1位を獲得。同5月1日より、「ゴールデンボンバー ホントに全国ツアー 2013〜裸の王様〜」を敢行。47都道府県55公演。国立代々木競技場第一体育館、大阪城ホールにて追加公演を行う。「女々しくて」がオリコンカラオケランキング51週連続1位獲得(歴代1位記録8/26付)2014年1月1日シングル「101回目の呪い」発売。インディーズ史上初の3作連続オリコン初登場1位を獲得。同年「女々しくて」がインディーズ作品史上初となるJASRAC賞金賞を受賞。同4月26日より全国ツアー「キャンハゲ」敢行、さいたまスーパーアリーナ含む47都道府県59公演を廻る。

彼らの音楽映像としてPV「女々しくて」の中国語 ver. を鑑賞し、彼らのユニークな音楽スタイルの一端に触れた。映画では喜屋武豊主演(映画初出演)の「死ガ二人ヲワカツマデ」(2012年)の冒頭を鑑賞した(主題歌はゴールデンボンバー「泣かないで」)。

## ROOT FIVE (以下、公式HPより)

会員数3800万人を超える動画共有サイト「ニコニコ動画」内の人気カテゴリ「歌っ

てみた」で人気を誇る歌手「蛇足」「ぽこた」「みーちゃん」「けったろ」「koma'n」の5人によるボーカルグループ。5人の合計動画再生数は3500万回オーバーを記録し、さらにドラマやミュージカルにも出演するなど、その個性的な歌唱力とキャラクターでネットとリアルの両軸で活躍する唯一無二の「ハイブリッドアーティスト」として活躍中。5人の合計 twitter フォロワー数は驚異の約90万人超。オリコンウィークリーランキングTOP10入りも果たしている現在注目の次世代型アーティスト。

メンバー本来のソロ活動の例として、koma'n from Pastel Penguin 1st LIVE “なないろ” colored with TOKYO at 新宿 FACE より DVD「Iridescence Party」(虹色、玉虫色、真珠光沢) と、ニコニコミュージカル「ニコニコ東方見聞録」<sup>10</sup>の一部を鑑賞した。

## まとめ

上記の諸例を通して、講義の受講生は音楽、映像、演劇、ミュージカルの世界に新しい変化が起きていることを如実に感じる事ができたはずで、実際、主要メディアがそれらに対して如何に消極的な扱いを続けようとも今度さらに発展していくことが予想される。冒頭で言及した映画「チョムスキーとメディア」が提示している事柄を理解することによって、そのことをどれだけ深く考察するかは偏に受講生の能力如何にかかっていることは言うまでもないが、芸術系教育機関の学生が今後どれだけ自分の専門も含めて芸術文化全般を考察する知的水準を保持して行けるかという点については、率直に言って年々不安が募る。

以上が大衆芸能における新しい潮流として筆者がとらえた事象を講義として展開したものだが、最後にそれに筆者が最近把握した2.5次元ミュージカル関連の最新動向を、講座とライブビューイングを中心に付記しておこう。筆者は自らの研究およびその教育への還元という意志の下、昨年も2.5次元ミュージカル関連のイベントに可能な限り出向いた。以下、そこで得た知見を簡単に要約する。

### 1 講座

(1)2015年8月8日(土) 座・高円寺2 「劇作家協会公開講座2015年夏」

「劇場を体感するワークショップ(14:00~16:00)」に続いて催されたミュージカル講座「2.5次元ミュージカル \_ どこから来て、どこまで行くのか？」(16:30~18:30)に参加した。2.5次元ミュージカルにおける伴奏カラオケ使用の効能や演者のマイク使用の普及に関して、講師の説明によれば、曲調特にリズムの複雑化傾向への対策として、カラオケ伴奏が有効と考えられるのは、演者の歌唱力の未熟さもあるが、総じて生オケや生バンドでは歌唱と合わせるのが難しいので、むしろカラオケが歌唱をリードして行く方がスムーズに進行するという実情が印象的だった。そしてシラビックなメロディを歌うにはマイク使用が必至であること、また新しい演出効果として舞台「東京喰種トーキョーグール」における人間(俳優)と妖怪(映像)とのヴィジュアル的に新鮮な絡みが話題になった。

(2)2015年11月9日(月) AiiA2.5Theater Tokyo 13:30~15:30「渋谷区観光協会シンポジウム 2015 劇場都市渋谷」

渋谷区の主要劇場のうち新国立劇場、パルコ劇場、シアターオーブ、AiiA2.5Theater Tokyoの代表者をパネリストに迎えて劇場文化都市渋谷の現状と課題について討論が行われた。それぞれの活動は一過性のものではなく、芸能も観光も都市の文化を育成する姿勢を基本とすべきという見解はどの劇場でも共通していたが、ミュージカルのインバウンドとアウトバウンドを考えるという点に関しては、アウトバウンド志向に積極的な2.5次元ミュージカルは今後、日本のクリエイターでアジアのパフォーマーという制作図式を提示したのが新鮮だった。

## 2 ライブビューイング

筆者が昨年および今年観劇した2.5次元ミュージカルと同関連の舞台を鑑賞日の時系列で記すと以下のようなになるが、本稿ではその詳細について述べる余裕が残されていないので、後日改めて機会を設けたいと考える。

(1) 薄ミュシアター「ミュージカル『薄桜鬼』黎明録」ライブビューイング、  
2015年6月14日(日)、17:00~シネマサンシャイン池袋



- (2) ミュージカル「忍たま乱太郎」第6弾再演 ～凶悪なる幻影！～大千秋楽ライブビューイング 2015年7月5日(日)、17:00~
- (3) 舞台『東京喰種トーキョーグール』大千秋楽ライブビューイング 2015年7月20日(月) 17:00~ TOHO シネマズ新宿
- (4) 舞台「戦国BASARA vs Devil May Cry」大千秋楽ライブビューイング 2015年8月30日(日) 17:00~ 新宿ピカデリー
- (5) ミュージカル「テニスの王子様 青学VS聖ルドルフ」大千秋楽ライブビューイング 2015年11月3日(火) 18:00~ 109 シネマズ名古屋
- (6) 「刀剣乱舞」トライアル公演ライブビューイング 2015年11月8日(日) 18:00~ TOHO シネマズ新宿
- (7) 「ハイキュー!!」大千秋楽ライブビューイング 2015年12月13日(日) 18:00~ 新宿バルト9
- (8) ミュージカル「忍たま乱太郎」第7弾 ～水軍砦三つ巴の戦い！～ 大千秋楽ライブビューイング 2016年1月23日(土) 17:00~TOHO シネマズ新宿

[注]

<sup>1</sup>大衆音楽もしくは通俗音楽を指す。欧米でも日本でも、音楽をクラシック（芸術音楽，シリアス・ミュージック）とポピュラーに二分したり，クラシックとポピュラーと民俗音楽に三分したりするのは広く行われている。クラシックが，規模が大きく変化に富んだ劇的な表現様式を備え，高度な精神性を内包するものと見られているのに対し，ポピュラーは，民衆の日常生活の中にある喜怒哀楽を直截に表現する娯楽性の強い音楽であり，ダンス音楽としての実用性を備えるなど，その享受のされ方も日常生活の中に深く溶け込んでいる。

<sup>2</sup>HP → <http://www.jaspm.jp/>

<sup>3</sup>アニソククラブイベントとは、DJがアニメソングを中心とした楽曲をかけるクラブイベントである。本研究では、アニソククラブイベントを対象とし、オタク系文化とクラブカルチャーの交わりについて論じる。フィールドワークやインタビュー調査などを踏まえ、相反するものとされてきていた両者の結びつきをアニソククラブイベントの歴史的変遷を

紐解きながら明らかにする。

<sup>4</sup> 本報告は浜崎あゆみという人物と、彼女が歩んできた歌手活動の中の葛藤や歌詞の意味を分析・研究したものである。歌詞の解釈やインタビュー記事の分析を通じてうかびあがってくるのは、歌姫という一見華やかな肩書の裏で、たびたび歌詞に登場する「もう一人の自分」に象徴される常に何かに葛藤している複雑な心境や姿である。そうした様々な葛藤や戦いの中で、彼女が見つけた居場所とは何か。年齢や経験と共に変化する歌詞や彼女自身について考えたい。

<sup>5</sup> 韓流や欧米文化に囲まれる中国のメディア環境の中で、日本におけるメジャーなジャニーズ文化が中国ではサブカルチャーのような存在である。日本のアイドルファンについては一般人にあまり知られていない。それにもかかわらず、中国には少なからずジャニーズファンが存在する。中国の女性ジャニーズファンを対象として、インタビュー調査を実施し、ファンの日常的な行動を考察していく。また、台湾のジャニーズファンおよび中国の韓流ファンとの比較研究を行い、中国におけるメディア環境およびファンの特性を検討する。

<sup>6</sup> 映像ドキュメンタリー「チョムスキーとメディア」のDVD

<sup>7</sup> 舞台「D-BOYS STAGE vol.3 鴉」最後まで見果てぬ夢を追い、古里を守ろうと戦い続けた若者たちの愛と友情の物語（羽原大介の脚本、2009年4月12日～18日青山劇場、4月23日～25日イオン化粧品シアター BRAVA! で上演）

<sup>8</sup> 舞台「博士と太郎の異常な愛情」（作・演出は堀江慶、2008年9月～10月、東京芸術劇場小ホール2で上演）

<sup>9</sup> 映画「TOKYO FANTASY」はDVDが発行されている（TDV25130D、東宝株式会社、2015年4月15日）

<sup>10</sup> ニコニコミュージカル「ニコニコ東方見聞録」は、ぽこた、蛇足が主演を務めている。

#### 参考音源・映像（抜粋）

##### [映画]

映画「アリーナ・ロマンス ボクはキミのオタク」AMAD141、アムモ、2007年

映画「BEAT ROCK ☆ LOVE」PCBG-51338、ポニーキャニオン、2009年

映画「音楽人」PCBG-51749、ポニーキャニオン、2011年3月16日

映画「死ガ二人ヲワカツマデ・・・第一章色ノナイ青」BBBN-1131、日活株式会社、2012年

映画「カノジョは嘘を愛しすぎてる」 ASBY-5757、2014年12月14日公開

[音楽]

「MASATAKA NAKAGAUCHI 1st Live Stand Up!!!」 MJBD-70708、マーベラスエンターテイメント、2008年9月3日

「Lead 10th Anniversary Live ～感今導祭～」 製品番号なし、ヴィジョンファクトリー、2012年7月31日公演収録

「MEN-tertainment ～メンタメ2011～」 AVBD-91873、AVEX ENTERTAINMENT INC、2011年

「D ★ DATE Summer DATE LIVE D ★ DATE 1st Tour 2011 ～手をつないで～」 UMBC-1017、ユニバーサルミュージック合同会社、2011年

[ミュージカル]

「エア・ギア v s。BACCHUS Top Gear Remix」 MJBD-70965、マーベラスエンターテイメント、2010年7月15日

「ニコニコ東方見聞録」 UPBL-1005/6、ドワンゴ・ミュージックエンタテイメント、2011年4月27日

「源氏物語×大黒摩季 songs ボクは、十二単に恋をする」 DHE G001、DHE 株式会社、2011年5月30日

[テレビ、舞台]

「博士と太郎の異常な愛情」 RFD-1106、キティフィルム、2008年

「D-BOYS STAGE VOL.3 鴉 KARASU」 CLVS-1013、Contents League、2009年7月24日

「方言彼氏キュート盤」 BIBE-8393、株式会社ハピネット、2014年3月4日

その他